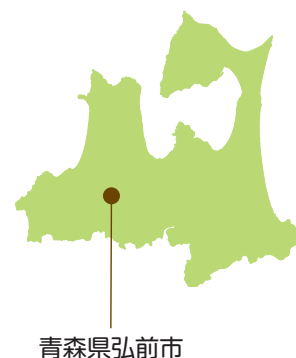


# 有限会社 ANEKKO

※2017年3月現在

代表者名	村上 美栄子	資本金	5百万円
設立年	2005年11月4日	売上高	234百万円(2016年3月期)
事業内容	生産(りんご、嶽きみ(スイートコーン)、枝豆)、消費者直売、加工・製造、観光・交流	経営規模	畑0.75ha、樹園地1.8ha、直売所2,834㎡(販売アイテム数:約1,000種類)
従事者数	18人(うち女性13人。女性内訳:役員1人、一般職5人、常勤パート7人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> 時間外労働及び深夜業の制限、家族看護等の休暇配慮 <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> 施設設備関係(休憩室・屋内トイレの設置)、重労働等の業務改善		



## 経営概況

(有) ANEKKOは、岩木山の麓に位置し、直売とレストランを中心に市民農園、観光りんご園を主な事業内容とする経営体である。「収入が年1回しかないりんご農家の現状を変え、農家の所得を向上させたい、地域の女性を元気にしたい、地域を活性化したい」と考える、村上美栄子代表の理念のもと、2005年11月に設立された。社名の「ANEKKO(あねっこ)」は、津軽弁で「娘さん」「姉さん」を意味し、地域女性の活躍を願って名付けられた。



2006年からはANEKKOの目玉事業となる、スイートコーン「嶽きみ」のオーナー制を開始した。嶽きみは、岩木山の麓の嶽高原(標高400m~500m)だけで栽培される糖度18度以上のトウモロコシである。2008年には地域団体商標に登録されている。また2007年4月に交流スペースを併設した農産物直売所「野市里(のいちご)」、レストラン「こざくら」、市民農園「向日葵」をオープンした。2008年には観光りんご園開園、2009年に「嶽きみ」を使ったオリジナルスイーツの開発と販売を開始した。

近年では、「嶽きみ」を使用した加工商品開発を元に、さまざまな活動を行っている。地域の加工業者との連携をはじめ、農村文化・食文化の継承を目指した盆踊り大会の復活、津軽凧や津軽三味線の体験教室の開催、津軽絵馬研究会の運営、レストランでの郷土料理の提供、農作業体験の受け入れなど、いずれも女性従業員のアイディアによるもので、地域経済の活性化に貢献している。

現在の経営規模は、畑0.75ha、樹園地1.8ha、直売所2,834㎡で、直売所では140名(8~9

割は女性)の直売所会員農家等から仕入れた農産物とオリジナル加工品約1,000アイテムを販売している。役員は3名、従業員は正社員7名、常勤パート8名で、従業員17名のうち12名が女性である。

## 1. 経営者の意識改革

設立当初からのモットーは「女性の視点でお客様のニーズを捉え、女性ならではのしなやかな感性で商品をつくり、サービスを提供する」ことである。このモットーに基づき、女性を中心とした従業員全員がやりがいを感じて働ける環境づくりに努める一方、直売所会員である農家の女性たちの経済的自立や自己実現のサポートにも努めている。村上氏自身、仕事と家事の両立の難しさを経験してきたため、ワークライフバランスの大切さを伝えながら、女性従業員が両者を両立させやすいように配慮している。

また会社の方針等を全従業員に認識してもらうため、理念やサービス内容などを記載した手帳を配布するとともに、勤務経験の浅い女性従業員でも業務改善に向けた意見を出しやすいように、業務日誌の記録を義務付けている。

## 2. 女性従業員のキャリア形成

年度毎に従業員全員から、消費者との交流事業やイベント、レストランのメニュー開発、「嶽きみ」等を使用した加工品開発などのアイデアを募り、アイデア採用時には従業員に主体的に取り組んでもらう。結果、仕事に対する意欲が向上し、チャレンジ精神が養われた。これらの取り組みを通じて、これまでに女性パート従業員1名が正社員になった。

2010年から女性従業員のアイデアによる「嶽きみ」の商品開発を強化し、現在、オリジナル商品は13品目になった。生果のままでは販売期間が短い「嶽きみ」を、加工することにより通

年で扱うことができるようになった。その結果、全体の売上も伸び、2015年は2009年の1.5倍になった。

またスキルアップに向けて社内外での研修機会を設け、資格取得も支援している。研修制度を通じて、これまでに従業員が取得した有資格は、ジュニア野菜ソムリエ2名、青森県米トレマスター1名、あおもり食育サポーター1名、食品衛生責任者2名、あおもり食命人2名で、そのほとんどが女性である。

## 3. 女性が働きやすい環境の整備

従業員の適材適所による業務分担を工夫している。女性がより快適に働けるように専用トイレや更衣室を設けているほか、レジ台の高さを女性に合わせた。直売所会員に対しては、売れる商品づくりのための研修会、欠品対策のための売上状況通知システム導入等を行い、農家女性の取組意欲と所得の向上に向けて支援している。

その他、育児・介護休業や家族看護のための休暇が取りやすいように、希望に合わせた勤務時間を設定する等、女性が働きやすい職場になるように配慮も行っている。

### 審査委員の声

名峰岩木山を望む直売所とレストランで、女性社員がいきいきと働いており、加工品開発やメニューづくりなどにも積極的に参加している。レジ台の高さの調整といった働きやすい職場づくりに向けたオペレーションの改善も、日常の会話の中で自然に行われている。商品を納める約140人の会員の8割を占める女性の所得向上にも大きく寄与していること、社長自身が女性経営者の代表として地元で活躍していることも評価したい。農業分野にとどまらず、地域の女性活躍の核となっている企業といえるだろう。